

白石第二小学校 外国語活動・外国語科 2月アンケート結果 考察

1 アンケート結果

- ・ 設問(1)では、英語の勉強を「楽しみにしている」「どちらかと言えば楽しみにしている」と前向きな回答をした児童の割合が、7月のアンケートと比較して、1・2年生90.4%(7月87.4%)で増加、5・6年生76.6%(7月80.5%)で減少した。3・4年生では、ほとんど変化が見られなかった。
- ・ 設問(2)では、どの学年も進んで英語で話そうとしている児童の割合が増加した。
- ・ 設問(3)①では、3・4年生で「聞いて分かる」が大幅に増加し、3～6年生で「やり取りができる」「だいたいできる」が増加した。
- ・ 設問(3)④⑥では、「発表ができる」「だいたいできる」が72.6%(7月65.3%)で、「まねて書くことができる」「だいたいできる」が79.4%(7月74.8%)と、どちらも前向きな回答が増えた。
- ・ 設問(3)⑤では、「読むことができる」「読むことがあまりできない」が減少し、「だいたいできる」「少しはできる」の中間層が増加した。
- ・ 設問(4)(5)では、平均すると3・4年生で89.5%、5・6年生で93%が前向きな回答だった。
- ・ 設問(6)では、3・4年生は「ゲーム」「うた」「友達との英会話」でやる気がある児童が多く、5・6年生は「ゲーム」「友達との英会話」「外国について知ること」にやる気を感じている児童が多かった。

2 今年度の成果

- ・ 外国語活動を楽しみにしている1・2年生が多くなった。廊下ですれ違うALTに英語で元気に挨拶をする児童がたくさんいる。小学校生活や外国語活動に慣れてきたことで、外国語活動を楽しみにする児童が増えてきたと考えられる。
- ・ 学校全体として進んで英語で話そうとしている児童が多くなった。友達との英会話にやる気を感じている児童が多い理由として、授業で、英語を聞いてまねたり、友達とペアで会話したりする機会を大切にしてきたことが考えられる。授業の振り返りの記述からは、「好きなスポーツが意外だった。」「友達のことを知ることができて嬉しかった。」などと、新たな発見について喜ぶ感想が多く見られた。

3 今年度の課題

- ・ 英語の勉強を楽しみにしている児童が5・6年生で少し減った。その要因として、新しい英語表現や発表する機会が増えたことにより、学習内容が難しくなっていることが考えられる。児童の「できるようになりたい」という気持ちに寄り添えるよう、具体的な手立てを計画し、個に応じた支援をしていく必要がある。
- ・ 「読むことができる」が減少し「だいたいできる」が増加した。英語の音と文字の不一致が要因であると考えられる。

4 令和5年度の重点事項

- 個別最適化な学習実現のための指導の工夫をしていく。
- 「読むこと」については、英語の音と文字の一致を目指して、アルファベット指導やフォニックス(発音と文字の関係性を学ぶ音声学習法)の指導を大切にしていく。
- 外国語活動から外国語へ、小学校から中学校へスムーズに接続できるように、指導計画や教材の工夫をしていく。